アイデンティティーを確立する

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。今年の彦根は例年になく寒さが残る春でしたが、彦根城壕端の桜花は変わることなく皆さんの入学を祝福するがごとく咲き誇りました。

ここで過ごす四年間は、良き社会人として飛翔するための修行・稽古の期間なのです。それゆえ、心して学業・課外活動に励んでもらいたいと切望しています。

ところで、先日、ある企業の新入社員研修でお話する機会を得ました。その場で、社員の皆さんに会社の歴史が記された社史に目を通した人に挙手を求めました。ところが、一人も社史を読んだ人はいませんでした。これにはびっくり仰天しました。自分が社会人として生きていこうとする場(会社)の歴史を学ばないで、就職活動をし、入社したということになります。この実態は、採用にあたった人事担当者も想定外のようでした。

企業が競争優位に立つために、長い年月と努力をかけて社会に認めてもらって初めて、コーポレートアイデンティティーを確立することができるのです。もちろん企業が存続して行く上では、常にイノベーションが必要です。新しい会社の歴史を創造することは、重要な営みです。しかし、それは長い年月の間の先人たちの努力の成果を前提にしていることを忘れてはいけません。

本学部も90年間の星霜を経る中で、世界に羽ばたく知識と行動力をもった人物を養成し、もって社会に貢献しようとする精神を醸成してきました。そのために、人文科学・社会科学の知識を教授することを大切にしています。両科学の分野は、自然科学とは異なり、正解は一つであるとは限らないと教えています。これから経験するであろうさまざまな問題には、たった一つの解しかないのではありません。複眼的に見るならば、多数・多様な解が存在するのです。

たとえば、歴史を学ぶことは、人類が経験したさまざまな事象を知り、現代の諸問題を解決するためのヒントを得ることが第一義ですから、歴史から複数の判断基準を学ぶことが自らのアイデンティティーの確立に役立つことでしょう。創造力は歴史への想像力から生まれ育ちます。そのためにも史料館を活用しながら学生生活を送ってもらうことを願います。

（附属史料館長　宇佐美英機）